



現在開催中の震災資料のメッセージ2021「『働く場』が『復興の地』へー振り返るHAT神戸ー」では、人と防災未来センターが立地するHAT神戸地区の歴史を伝える震災資料を紹介しています。

その中で、当地区のかつての風景として宇佐美重氏の水彩画を展示しています。

震災資料のメッセージ2021 「『働く場』が『復興の地』へー振り返るHAT神戸ー」

開催期間：令和4年6月26日(日)まで
 展示場所：阪神・淡路大震災記念
 人と防災未来センター 西館3階(有料ゾーン)

資料室の感染防止対策について

資料室は、感染防止対策をとりながら開室しております。
 資料室利用者の皆様には、引き続き、感染防止のご協力をお願いいたします。

滞在時間の短縮に ご協力をお願いします

- 閲覧する二次資料は事前に検索システムをご利用下さい。
- 一次資料の閲覧は事前(3日前まで)に申請を行って下さい。
- レファレンス・調べ物は、窓口以外(電話・メール・FAX)をご利用ください。



閲覧席の数 を減らしています

- 利用者同士の距離を一定程度保つため、閲覧席の間隔を広げています。
- 利用者間の飛沫感染を防ぐため、私的な会話はお控え下さい。



▲閲覧席には、パーティションを設置しています。

共用機器類の 利用停止 (または一部利用停止)

- 不特定多数の方が使用する機器の利用を制限しています。

最新の情報は HP・Facebookで



▲HP



▲Facebook

震災資料をお持ちの方に

人と防災未来センターでは、現在も震災資料の収集を続けています。「こんなものでいいのかな?」と、おっしゃる方もなかにはいらっしゃる。寄贈できるか分からないとお考えの方や、震災後、すぐには手放せなかったものの、**震災の出来事を伝えるために活用したい**とお考えの方など、悩んだ際には、**ぜひ一度、資料室までご相談ください。**

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構 DRI 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター資料室

〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 人と防災未来センター西館5階
 TEL 078-262-5058 FAX 078-262-5062
 URL <https://www.dri.ne.jp>
 開室時間 9:30~17:30(展示施設とは時間が異なりますのでご注意ください)
 閉室日 毎週月曜日(月曜日が祝日又は振替休日の場合は翌平日)
 12月29日から1月3日



資料室ニュース

人と防災未来センター資料室は今年開室20周年を迎えます

人と防災未来センターは、令和4年4月に開設20周年を迎えます。それに合わせて資料室も開室20周年を迎えます。

所蔵資料は、一次資料は約19万8千点、二次資料は4万4千点以上になりました。

これからも、資料室は震災資料の収集・保存と利活用に取り組みますので、今度ともどうぞよろしくお願い致します。



ご挨拶

資料室開室20周年を迎えるにあたってー震災アーカイブの役割と未来ー 震災資料研究主幹 林勲男

資料室ニュースは、2002年9月にVol.1が発行されました。その巻頭で、資料収集に携わった松笠誠一氏が当初の様子について書いています。そこには、資料を収集する側と提供くださる側とのさまざまな思いの交差を垣間見ることができます。

兵庫県が、震災資料の収集・保存の取り組みを始めたのは1995年10月。その後、(財)21世紀ひょうご創造協会への業務委託を経て、(財)阪神・淡路大震災記念協会(1998年設立)に引き継がれ、2000年から約2年間は大規模な収集事業へと発展しました。そして2000年3月に、この「資料室ニュース」の前身である「(財)阪神・淡路大震災記念協会 資料室ニュース」が発行されています。

この20年間で、災害を伝えていくための展示施設やアーカイブ、データベースが多くの被災地で誕生し、インターネット上に公開されているものも少なくありません。そして、国立国会図書館によるポータルサイト「ひなぎく」のように、資料の所在や内容を効率的に知ることにも可能となってきました。

こうした資料やデータの提供者や収集者の願いは、ただ保管されているだけでなく、当時の災害の様子を知るために、さらには未来の命を守るために利用・活用されることだと思います。今後は、災害資料・関連データの利活用を促進するため、管理・運用する機関間の連携が重要と考えます。

経歴(発行日時点)

平成4年 一橋大学大学院社会学研究科地域社会研究専攻
 後期博士課程修了
 平成4年~5年 シドニー大学人類学科客員研究員
 平成6年~ 国立民族学博物館
 (現在 超域フィールド科学研究部・教授)
 令和3年4月 震災資料研究主幹に着任



開催中 令和3年度 資料室企画展

ひとぼうのたからもの

令和4年5月8日(日)まで

令和4年4月に開館20年を迎える人と防災未来センターが所蔵する震災資料は、現在約19万8千点。これらの資料は、(財)21世紀ひようご創造協会、(財)阪神・淡路大震災記念協会を経て、私たちひとぼうに受け継がれてきました。本企画展では、震災資料の収集とセンター開館までの歴史を振り返るパネルと関連資料を展示しています。



トライやる・ウィークを実施しました!!

令和3年11月11日~11月12日

資料室では、トライやる・ウィーク(中学生による職場体験)の受入を行っています。今年度は神戸市立神戸生田中学校のお二人がご参加し、震災資料専門員のお仕事の体験や実際に震災資料に触れていただきました。

資料を保管している収蔵庫で、普段は展示されていない資料を見せてもらいました。震災資料はできるだけ劣化しないよう保存方法に工夫があると聞き、保存へのこだわりが伝わってきました。

震災当時の生田中学校の資料を見せていただきました。震災後の学校の状況などが書かれていて、自分が通っている学校とは思えず驚きました。



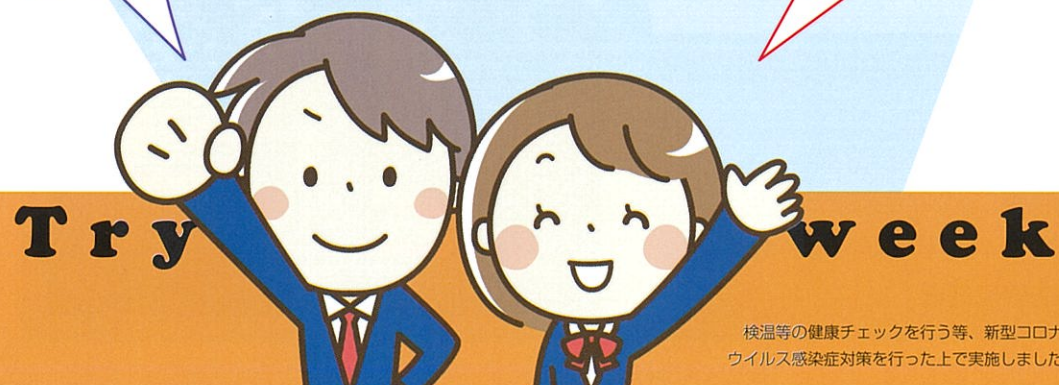
資料の出納



資料梱包



状態check!



検温等の健康チェックを行う等、新型コロナウイルス感染症対策を行った上で実施しました。

国立国会図書館東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」との連携を開始しました!

人と防災未来センターでは、令和3年10月1日より、「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ(愛称:ひなぎく)」との連携を開始しました。これにより、当センターで所蔵している阪神・淡路大震災に関連する資料を「ひなぎく」からでも検索することが可能となりました。



令和4年1月17日から1月31日まで、人と防災未来センターと神戸大学附属図書館デジタルアーカイブ震災文庫が収録する画像5点がひなぎくトップページに掲載されました。

ひなぎくとは?

「東日本大震災に関するあらゆる記録・教訓を次の世代へ」をコンセプトに、被災地の復旧・復興事業、今後の防災・減災対策や学術研究・教育等に活用されることを目指しています。「ひなぎく」の愛称は、「Hybrid Infrastructure for National Archive of the Great East Japan Earthquake and Innovative Knowledge Utilization」の頭文字から取られています。「ひなぎく」の花言葉が「未来」、「希望」とあるように、復興支援という事業の趣旨が込められています。

どのようなことが調べられるの?

東日本大震災に関連する音声・動画、写真、ウェブ情報等を包括的に検索することが可能です。また、東日本大震災以外の、阪神・淡路大震災をはじめ、中越地震や熊本地震の被災地の施設や図書館とも連携をしており、全国の被災地のアーカイブを検索することが可能です。

国立国会図書館東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」
URL: <https://kn.ndl.go.jp/>